

令和 5 年度（2023 年度）熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 令和 5 年（2023 年）8 月 23 日（水）

午後 3 時 00 分～

会場 熊本市立図書館 2 階 集会室

<p>《出席者》</p> <p>■熊本市立図書館協議会委員</p> <p>桑原 芳哉 委員（会長）</p> <p>藤井 美保 委員（副会長）</p> <p>鶴田 由美 委員</p> <p>宮村 幸宏 委員</p> <p>山川 李好子 委員</p> <p>鎌田 文代 委員</p> <p>田中 敦朗 委員</p> <p>嶋津 紳二郎 委員</p> <p style="text-align: right;">以上 8人</p> <p>《欠席者》</p> <p>石黒 義也 委員</p> <p style="text-align: right;">以上 1人</p> <p>傍聴者 1人</p>	<p>《出席者》</p> <p>■熊本市側</p> <p>山内 熊本市立図書館長</p> <p>恵口 熊本市立図書館副館長</p> <p>橋本 植木図書館長</p> <p>松田 城南図書館長</p> <p>石本 くまもと森都心プラザ図書館長</p> <p>《欠席者》</p> <p>水町 とみあい図書館長</p> <p>(事務局)</p> <p>郷田主幹 (熊本市立図書館)</p> <p>松里主幹 (")</p> <p>岩野主幹 (")</p> <p>福岡主幹 (")</p> <p>林主事 (")</p> <p style="text-align: right;">以上 10人</p>
---	---

令和 5 年度（2023 年度） 熊本市立図書館協議会 議事録

1 開会

2 熊本市立図書館長挨拶

3 委員・職員紹介

4 議事

- 議題 1 令和 4 年度（2022 年度）図書館事業統計について
- 議題 2 令和 4 年度図書館アンケートの結果について
- 議題 3 「図書サービスのあり方について」の改訂について

5 その他

6 閉会

挨拶、委員・職員自己紹介

※公開時は、委員名はすべて「委員」とします。本館職員も全て「事務局」のみとします。

【議事】

議題1 令和4年度（2022年度）図書館事業統計について（資料1、1-2）

（事務局より説明）

- 委員 昨年度の実績ということで、事務局の方から報告をいただいた。蔵書数とか貸出冊数という数字が中心になるが、実績に関して貸出だけではなくて、もう少しさまざまな指標を考えてもいいのではないかなという話があったかと思う。数字には載っていないが、入館者数を見ると、本館より森都心プラザ図書館が多いといったような状況があって、特に森都心プラザ図書館が滞在型というような特徴的な図書館として活動しているので、資料にはないが、森都心プラザ図書館の特徴的な活動等についてご説明をお願いしたい。よろしいでしょうか。
- 事務局 当館はビジネス支援センターなどと連携をしたビジネス支援に重きを置いた専門図書館としてその役割を担っている。例えばプラザコレクションというプラザに特化した資料を多く揃えていて、書店、インターネット、他の図書館ではなかなか手に入らないような専門的なビジネス書を揃えている。その他にもビジネス誌や業界新聞、またデータベースなどもご利用いただいている。さらに、ビジネスライブラリアンというビジネス支援の専門的な知識をもった図書館員を毎年育成している。このビジネスライブラリアンというスタッフがイベントの講師などを務めて開催させていただいている。他にも長時間滞在される方が多くて、当館には137席をご用意しているが、その中の60%の81席を仕事や勉強に使っていただくように開放している。さらに学習室36席を別に設けて100席以上を開放している。その他にもお客様から、「プラザには読みたい本がいつもあるのが魅力的だ」というお言葉をいただいて、市民の方、地域の方々の書斎のように使っていただいている。また、図書館の交流拠点性を生かしてイベントを開催している。これは参加対象を明確にして開催していて、例えば高齢者向けだと、健康療法の講演会、体操、上映会、歴史に係るイベントを当館スタッフと史談会という肥後の歴史をされている方との対談形式を行ったりしている。またお客様同士が交流できるイベントとしてビブリオトークをしたり、異世代交流のイベント、7.8月は児童向けのイベントで自由研究に役立つイベントとしてUVビーズでプレスレットを作ったり、古武術の先生にきていただいたイベントなども開催している。それだけではなく、こどもの読書週間に合わせたイベントとして、今年は劇団の方をお願いをして、「3びきのこぶた」をテーマにしたイベントを開催した。また、高校生、大学生、専門学生の方にはなかなか図書

館に来ていただけないが、そういう方たちに向けたイベントもしている。ビブリアバトル高校生大会や高校生に大人たちへ本を紹介してもらう「大人たちこそこれを読め」というイベントで、高校生たちに本を紹介していただくような取組もしている。その他にもバリアフリープロジェクトとしてバリアフリー上映会というものを開催していて、イベントの種類は54種類、イベント数はお話し会も含めて200回以上を開催している。のべ6000人以上の方に参加していただいている。これらは私たちプラザ図書館スタッフだけではなくて、地域の方々のご協力もいただいている。市役所などをはじめとした行政機関との連携や地域のボランティアの方の協力や福祉施設、民間企業などとの連携を取らせていただいで一緒に盛り上げていただいている。先程、貸出冊数のご指摘があったが、私たちも貸出冊数が少なくてもいいとは思ってはいない。こういったイベントに関連した本を紹介したり、毎月、旬の話題、町の話題などいろんなテーマを設定させていただいて本を紹介したり、熊本市の企業の方々、リーダーの方々に直接読んで本を紹介していただいでお客様に本を読んでもらうように努力をしている。今後もそういった努力を続けながら活動していきたいと思う。

委員 ありがとうございます。

委員 電子図書館の件での質問。子どもたちは全員タブレットを持っている。ものすごく図書に対してのアクセスがよくなっているという状況のなかで、家に本がなくてもアクセスできるということで劇的に変わってきている。ただ、図書に親しむ習慣がない子どもはなかなかそこに行きつかないというところがあるので、ぜひ図書館側から小学校の方へ、図書の素晴らしさや図書に親しむことによって人生が変わっていくということなども含めて誘導するような取組をしていただきたい。もう1点は蔵書を増やしていただきたい。2万点以上の本があるが、良い本はたくさんあるので増やしていただいで、子どもたちがより図書に親しめる環境を作っていただきたい。あともう1点、プラザ図書館の取組をいろいろお伝えいただいたが、その素晴らしい取組を発信するなかで、できればぜひ動画で配信をしてほしい。YouTubeでプラザ図書館のチャンネルを作っていただいで、発表する保護者の許可をとって発信していただくと、プラザ図書館の広報にもなるし、図書の素晴らしさを広める事にもなると思う。

事務局 電子図書館については年々蔵書の方も増えている状況なので今後もそれに努めたいと思う。学校関係でいうと、多くの方が同時にアクセスできるマルチライセンスを増やしているの、そういったところを活用していただけたらと思う。

委員 図書館の増加率がマイナス11.3%、公民館図書室が42%というような数値で、その説明が3ページの枠の中にあるが本当かなと思う。一時的に貸出冊数を5冊増やして、それをまた元に戻したというような話だったが、やはり入館者数や貸出者数が変わらないのに減っているということだったら、このような説明が

成り立つのかなと思うが、入館者数も減っていますということだったら、枠の中の説明が成り立ちにくいのかなと思う。そこのところがよく分からないので、もし分かれば教えていただきたい。それと、4ページの蔵書回転数を見ると、ところによってかなりのデコボコがあるが、全体的に図書館より公民館図書室の方が回転数が大きい。ということは、2ページの増加率を見ても公民館図書室の方が4割くらい大きいというのを見ると、みなさん近くで利用したいというようなニーズが非常に高いのかなと思う。それであればもう少し公民館図書室の蔵書の整備というのに力を入れていく必要があるのではないかな。これも分かるころがあれば教えてほしい。もう一つ、電子書籍の件だが、大学生の話で紙の本だとなかなか読む気が起こらないが、電子図書だとすいすい読めるということを知った。その話を聞いて驚いたが、実際の若い人はそういうふうになっているのだと現実を突きつけられた。そういう意味でも9ページに掲載のタイトル数も増えているが、貸出数や予約数はタイトル数に比べてもっと大きい増え方をしている。それだけニーズが若い人たちを中心にあるのかなと思うので引き続き力をいれていただきたいと思う。続いて5ページに16歳から29歳の増加率が1を切るということが書かれてあるが、これも若い人の人口が減っていたら利用する人の数も当然減ってくるので、単純にこの数だけで言ってもいいのかなと思う。そういうことを考えると、統計をせっかく取るならもう少し細かい統計の仕方、分析の仕方をしていただくと実際本当にどこに力をいれるべきなのかがもっと明らかになるのではないかなと思う。

事務局 入館者数については、令和4年度の図書館5館の入館者数は100万9354人であってほしい100万人の入館者があった。前年度の令和3年度の入館者数は5館で85万5000人だったので、令和4年度は増えているという状況だった。ちなみにコロナ禍前の平成30年度は5館で128万6000人だったので、現在はコロナ禍以前の入館者数に向かって回復している途中と考えている。回転数については、どうしても図書室の設備的なスペースの問題もあり、これ以上増やせないという事情がある。そのため、図書室の利用としては図書館全体の中から読みたい本を選んでいただいて、図書室に並んでいる本と両方を選んでいただくような使い方が今は中心になっていると思う。貸出者数の年齢ごとの統計についてはご指摘の通り、年齢ごとの人口規模の件については今後含めて分析していきたいと思う。

委員 確かに公民館での貸出冊数は他館に予約とかで取り寄せたものを近くの公民館で借りるといった利用の仕方もあるということなので住民の方はなるべく近くで本を借りたいというニーズの表れかもしれない。この後の議題の図書サービスのあり方で今後の熊本市全体のサービスのあり方の検討が必要なのかもしれないと思う。

議題2 令和4年度図書館アンケートの結果について (資料2)

(事務局より説明)

- 委員 小学生に関するアンケートについて、学校の図書館を毎日あるいは週に1回以上利用すると回答した1年から2年生は80%を超える、ただ小学校3年生から中学校3年生では55%であるということだが、ここは小学3年生、4年生、5年生、6年生それぞれで平均して出した結果、同じような値になったということなのか。
- 事務局 平均というわけではないが、小学校3年生から数字が急激にガクッと下がっていて、どの学年も50%くらいを推移している。資料3-1のあり方(資料編)を見ても、小中学生のアンケート6ページ目で、小学1年生・2年生と小学3年生から中学3年生まで分けて分析している。この分析で見ると下がっている。
- 委員 中学年までは、図書の時間を週1回設定し、図書館で本の借り換えをしたり、読書をしたりしている学校も多いので、3年生以上になると図書の時間が減ることを意外に思った。
- 委員 保護者の立場から言うと、高学年にいくにしたがって読書に親しむ機会が減るとするのは、今の時代なのか、我が家の息子たちも家で動画ばかり見ている。手っ取り早くて楽しい、短い動画が繰り返し様々なものが出てくるというところで、読書のようにある程度の時間を要して、想像力を働かせながら最低限の教養がないと楽しめないというところで、読書を楽しむというところに行きつくにはそれなりの習慣が必要となってくる。安易に動画に流れて行っているというのが現状なのではないかというのは保護者として感じているところだ。この数字は今の時代が呼応しているということと、これを変えて子どもたちが中学生高校生まで図書に親しむためには、週1回の図書の時間を継続的にやっていっていただいて、図書の楽しさを実感できるような機会が増えて行かないとこの状況は変わらないのではないかと実感をしている。
- 事務局 学校関係(図書館と学校)とのつながりの中でまだ足りていない部分を感じるところはあるか。
- 委員 資料1でも説明があった通り、物語定期便、リクエスト便では大変お世話になっている。調べ学習に関しても書籍を増やしていただいたり、電子書籍も増やしていただいたり、そういう点ではとても助かっている。今年は図書の購入費用が例年よりも倍増しており、蔵書率は高かったが新しいものが少ないということがあって、アンケートの中にも魅力的な書籍がほしいとあったが、今年は廃棄も増えた。図書司書補助の先生方にはご迷惑をお

掛けしたところもあったが、それによって新しい書籍が入ったので子どもたちがたくさん借りてくれたらいいなと思っている。物語定期便も新しくなったし、学校としては有難いと思う。活用していかなければいけないというのが課題だと思う。

委員 利用者のアンケートの件。資料3-1で、年齢別構成が載っているが、10代20代合わせても1割をきる、30代を合わせても30%に達しない構成になっている。全体を見ると、開館時間にしても今後の図書館についてしても割と現状維持のような答えが多かったということだが、これから先のことを考えたときに、それはそれとして現在の利用者の方がどういう風に望まれるか、さらにサービスの充実も大事だが、10代20代30代の方が今後どういう風なニーズがあるのかということを見て、対応していくことにはならないのか、どうなのかなと思う。そのあたり、年齢別にニーズに違いがあるのか、ないのか分かる範囲で教えてもらいたい。

事務局 現状で年代別のニーズの把握は十分に把握しきれていない。

委員 年代別にクロス集計をしても結局は同じ結果なのかもしれないが、やってみないことには分からないので、ぜひそのあたりを確認していただいて、若い人たちのニーズが、年齢層の高い人たちのニーズと違うようであれば、未来の図書館を考えるということであれば、そこのあたりを丁寧に拾っていただくのもいいのではないかと思う。

委員 特別支援教育の立場から。今年度からあおば支援学校もリクエスト便を藤園中、城東小と合わせて受け入れてもらって対応してもらっている。本校のこどもたちも本が好きで、休み時間とかたくさん親しませてもらっている。コロナ禍で読み聞かせボランティアの方に来ていただく機会がめっきり減っていて、昨年度くらいから本校にも来ていただくようになったが、やっぱり読み聞かせしていただくと、すごくこどもたちが喜んで目がキラキラして、本に対する興味が深まっていると思う。コロナも少しずつ落ち着いてきているので、学校としても保護者の方、読み聞かせボランティアの方や地域の方々などをお願いしながらそういう機会をたくさん作っていききたいなと思っている。

議題3 「図書サービスのあり方について」の改訂について (資料3)

(事務局より説明)

- 委員 直接話とは関係ないが、先日、日本図書館協会で購読している図書館雑誌という本に今年度の政令指定都市の図書館の資料費の予算額の一覧が速報として載っていたのでそれを見たところ、熊本市の今年度の資料費が昨年度に比べて1800万マイナスになっているということでかなり資料費が減ってしまったという現状があるようだ。熊本市だけでなく、他の都市でもあったようだが、図書サービスのあり方として今後、資料の充実を図っていくべきだし、先ほどのアンケートなどでも資料の充実を希望する声が大きいのかなと思うが、そういった中で資料費が今年度かなり大きく減ったということがあって、今後の資料費の確保が一つの大きな課題になるのではないかと思う。そのあたりについて事務局の考えを教えてほしい。
- 事務局 資料費の削減については、当初予算ベースの表現であり、実際は電子図書館の予算は2500万円ほどの繰越であるので、実際は2800万円ほど令和5年度の電子図書館購入費がある。
- 委員 一般的な雑誌図書費も減っているのかなと思う。それが今後も続くことは資料の充実という点では矛盾するのではないかと思うので予算の確保を継続して頂きたいというお願いになる。
- 委員 ボランティア中心にしたところの質問。こども読書推進活動について考えてみたい。小学校はみんなタブレットを持っており、1年生から電子図書を見られる環境にある。これからの図書館のあり方としては、必然的に利用は電子図書の方に移っていくのではと思う。そうすると図書館まで足を運ぶということが少なくなっていくのではと思う。お話しボランティアをしていると、3.4歳くらいを中心とした親子、最近はお父さんも子どもさんを連れてお話し会にくる。だから親子で楽しめるということをととても大事にしている。これが政府の方針で仕事をしていなくてもお子さんを預けられるような保育所の制度が今度施行されることがあれば、ますますお母さんたちは働いて、子どもさんの面倒を見る時間が少なくなるかと思うがやっぱり小さい子は親子で一緒の本を読むというのが基本だから、お話しボランティアというのはとても大事な活動ではないかと思っている。資料をみると、だいたい小学校からの読書活動を載せているが、その前の幼稚園・保育園、その前の子育て支援センターのところから入ってボランティア活動をしている。今まで自主的な活動していたが、自分たちで活動しているとなかなか情報が得られにくく、マンネリ化してくる。そこで講師の先生を呼んだりして質の向上を図っていたが、コロナの影響でなかなかできない状況である。図書館への要望として、質の向上のために講習会を開いていただきたい。それと、お話し会開催の回数についてもボランティアの総会でみんなの意見を聞きたい。

ボランティアルームの使い方も話し合いたい。そういうことをよろしくお願
したい。

事務局 ボランティアの方の研修や講習会については、コロナ禍ということがあってこ
の何年か休止していたが、今年度は初心者向けの講習をしようと思っている。図
書館の利用についてもボランティアの方と話し合いながらしていきたいと思う。

その他

委員 市民の意見として。先日、中央公民館に行った。建物は市立図書館に比べると小
さい建物であるがトレーニングセンターや図書室、レストランやその他の階に
もあますことなくスペースに人がいた。私は、スペースはお金だと思っている、
市立図書館はとても大きい、例えばホールの使い方がもったいないのではな
いか。現代美術館の図書室には仮眠できるスペースがある。年齢を重ねると少し
面倒くさくなりがちで、こういう場所のように一つのところにずっと居ても楽
しいのがいい、自分の時間を有効的に使いたいと思っている。中央公民館や現代
美術館のようなアミューズメントの面もこれからの図書館で目指すテーマの一
つなのではないかと思う。

委員 アンケートの中でもホールの使い方についての回答があったが、せっかくの施
設なので有効に活用することがこれからの図書館のあり方なのかなと思う。